

■ 児童発達支援自己評価表 ■

特定非営利活動法人クローバー わかば

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			課題ルーム、遊戯室2、クールダウンの部屋、相談室など、部屋の機能を明確にししながら、一人ひとりに応じた支援ができるスペースを確保している。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			利用する子どもの直接支援は利用者:職員が概ね2:1となる体制としている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			他の子どもの様子が気になり、集中できない子どもが多いため、建屋内の部屋の構造を工夫し、さらに衝立などを利用して適切な活動ができるようにしている。身体的な方への配慮もしている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			改善すべき事項が生じた場合は、関係する職員と話し合い、決定した対策は周知し、その後の状況も確認し、課題があれば再度対策を検討し、適切な状態にする。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者向け評価を実施。 また、支援計画作成の前には、書面で簡単なアンケートを実施。口頭でも意向をお聞きして対応している。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページから公開
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	今後、検討する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			採用時研修に加え、毎年、事業所ごとに全職員に研修を実施。また、外部で行う専門研修を紹介し希望者は受講(参加費助成)。問題が生じた際は、都度対策を検討し、必要に応じて研修を実施。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			毎日、活動の結果を評価。 支援計画実施の際は、半年間の評価書を作成。 保護者へは簡単なアンケートを行い、支援計画の面談で、さらに意向を聞いて計画に反映。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			当法人において標準化したツールを利用している。
	⑪	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			生活に必要な力、学ぶ力、手先を使う力、他の子や大人の人と関わる力などを一人ひとりの発達の状態や障害特性に応じて、発達支援の取り組みを行っている。また、家族へは子育てに役立てていただけるよう情報提供を行っている。地域支援は、事業所だけでなく法人として取り組んでいる。

	⑫	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			児童発達支援計画に沿って日々の活動を行っている。なお、発達による子どもの変化もあり、必要に応じて計画の微調整を行っている。
	⑬	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			職支援計画の作成は、関係する複数の人の情報を得て作成している。
	⑭	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			毎日の活動を評価し、スモールステップで成長を図るよう取り組んでいる。なお、その子の状態によっては、活動を安定させることが必要なこともあり、一人ひとりに応じた取り組みを基本としている。
	⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			学習などの課題への取り組み、他の子どもと関わる遊びを中心とした場面の取り組みなど、一人ひとりに応じた計画を作成し実施している。
	⑯	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			当日の利用者の状況、気を付けるべきことなど、打合せを行っている。
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎もあり、終了後に全員がそろって打合せをすることはできないが、その日に起きたことについては、個別の記録を作成し、大きな問題などは関係する職員との情報交換および児童発達管理責任者への報告、相談を行っている。
	⑱	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎日、個別に記録を作成し、これまでの状態の把握、今後の対応につなげている。
	⑲	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			計画の見直しについては、日々の評価、継続的な評価を元に必要に応じて随時行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			必要があれば、子どもの状況に最も精通したふさわしい者が参画する。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			必要に応じて、関係機関と情報交換や協力を行っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			○	当事業所としては、そのような事例はない。
	㉓	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			○	当事業所としては、そのような事例はない。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			保護者の同意や要請を基本に必要な応じた情報交換を行っている。
	㉕	小学校や特別支援学校（小学部）との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			保護者の同意や要請を基本に必要な応じた情報交換を行っている。また、教育委員会とも必要に応じて情報交換を行う。

や保護者との連携	②⑥	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			法人として、広く地域の機関と連携している。
	②⑦	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		当事業所として、子どもと一緒に活動させることはない。なお、幼稚園、保育園と並行して利用している子どもは多数いる。
	②⑧	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			自立支援協議会へは、当法人として参加している。
	②⑨	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			子どもの状況、家庭の状況により違いがあるが、共通理解をもとに取り組むよう努めている。
	③⑩	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			個々人の特性や障害に応じた支援を家庭でも行うことができるよう、相談対応や情報の提供を行っている。
保護者への説明責任等	③①	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			説明している。
	③②	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			児童発達支援ガイドラインは提示していないが、同様の趣旨の説明を行っている。また、児童発達支援計画の同意を得ている。
	③③	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			相談に応じ、必要に応じて助言や支援を行なっている。
	③④	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		法人の総会や、年に1度の交流会など、レクの機会などを行っているが、積極的な活動とはなっていない。
	③⑤	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			日常的に、質問・要望などがあれば誠意をもって迅速に対応している。
	③⑥	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○		法人としては、すべての事業を対象にした機関紙を出しているが、当該事業に特化したものではない。事業所として必要な情報などは、その都度連絡している。
	③⑦	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			十分注意している。
	③⑧	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもとのやりとりでは、子どもの理解力や特性に合ったやり取りを心がけている。保護者の方とは、家庭の状況、将来の心配ごとなどに配慮したやり取りに心がけている。
	③⑨	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		利用者は、知らない人との交流が苦手であり、開かれた交流の場は作っていない。なお、希望される方の見学やホームページなどで情報の公開をしている。

非常時等の対応	④⑩	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			災害時のマニュアル、連絡手段などをインターネットで閲覧できるようにしている。感染症などについては、職員に徹底し、必要に応じて機関紙などでも広報している。なお、いつでも使えるよう徹底が必要。
	④⑪	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			事業所ごとに、災害時を想定した訓練や対策を行っている。
	④⑫	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか		○		予防接種は家庭の判断としている。なお、インフルエンザなど感染症への注意喚起は適宜行っている。てんかん発作が懸念されるこどもの状況は気を付けてみている。
	④⑬	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			必ず保護者に確認している。
	④⑭	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		一部、実施しているが、十分ではない。今後さらに徹底したい。
	④⑮	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修に加えて、昇給基準にも利用者との関わり方を明記し、日常的な関わりの中で、適切な関わり方を徹底している。
	④⑯	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			身体拘束は行わない。